

グループ名	ユニット名等	科目名	担当教員名	対象学年次	学期
選択科目	2単位	新島襄—その時代と生涯—	山下 智子	1年次	春

授業のキーワード	良心・自立自治・智徳並行教育
授業の概要・目的及び修得させる知識・技能	新島襄 明治期の日本が生んだ偉大な教育者・宗教家です。新島学園は新島襄の郷里安中に新島襄の志を受けた人々によって創立されました。新島襄が、どのような時代に生き、どのような生き方をし、どのような思想や信仰を持っていたのかを学ぶことを通して、現代に生きる皆さんが生きるヒントを得ていただきたいと思います。
履修のアドバイス・前提科目等	「新島襄のゆかりの地を学ぶ旅」は一般の学生にもオープンにしますので、この「旅」を有意義なものにするために、主体的にシンプレット作りなどに参加してほしいと思います。

授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	現代において新島襄を学ぶ意味	新島襄のキリスト教教育への志と新島学園の創立について学びます。	第9講	留学先での新島襄を支えた人たち	新島襄の英文の手紙を読んでみよう。アメリカの「母」たち、シーリー教授、フリント牧師らとの関係を手紙から学びます。
第2講	新島襄の誕生から脱国まで	新島襄どのような少年時代、青年時代を過ごしたのだろう。 「比五三太」の由来、少年時代の習い事、快風丸での経験、自由を求めての種痘行き、ニコライ神父、「千里の志」を抱いて脱国などについて学びます。	第10講	日本への帰国	新島襄はどんな夢をもって日本に帰ってきたのだろう。 キリスト教大学の設立の訴えなどについて学びます。
第3講	アメリカへの航海とボストン上陸	新島襄はどうやってアメリカに渡ったのだろう。 セイヴォーリー船長、テイラー船長、ハーディー夫妻との出会いなどについて学びます。	第11講	京都で同志社を開校	同志社を設立するのにどんな苦労があったのだろう。 同志社設立の精神はどんなものだったのだろう。 「三十番教室」、大学設立運動、女子教育への熱意などについて学びます。
第4講	アメリカでの留学生活	新島襄アメリカでどんな教育を受けたのだろう。 フィリップス・アカデミー、アーモスト大学、アンドヴァー神学校での日々について学びます。	第12講	教育者として	新島襄の教育方針はどんなものだったのだろう。 「自責の杖」事件などについて学びます。
第5講	新島襄と群馬 ① パンフレット作り	新島襄にゆかりのある群馬の地について調べ、見学のシンプレットを作ります。	第13講	晩年の新島襄	新島襄はどのようにして亡くなりどんな遺言を残したのだろう。 教会合同運動への反対、大磯での永眠、遺言、京都での葬儀と埋葬などについて学びます。
第6講	新島襄と群馬 ② 安中ツアー	新島襄にゆかりのある群馬の地を実際に見学します。	第14講	まとめ	新島襄の生涯から現代に生きる私たちが学ぶことは何だろう。
第7講	新島襄を支えた群馬のキリスト者たち	どんな人たちが新島襄を援助したのだろう。 湯浅徳郎とは、柏木謙円らについて学びます。	第15講	期末試験	
第8講	キリスト教との出会い	新島襄はどのようにしてキリスト教徒になったのだろう。 聖書との出会い、受洗、牧師となる決心などについて学びます。	評価方法		期末課題 40% 安中ツアーへの参加度・貢献度 20% 平常点 (授業態度、出席状況、ミニ検定クイズ) 40%
備考 (関連する資格・試験等)					
使用する教科書 (必ず購入してください)			参 考 文 献		
同志社大学編『新島襄検定 100 問』、コトコト、2008 新島襄編集委員会編『新島襄の手紙』、岩波文庫、2005			学校法人同志社編『現代語で読む新島襄』、丸善、2000 本井康博『新島襄と建学精神』、思文閣出版、2005 本井康博『新島襄を語る (1) ~ (8)』、思文閣出版、2005~2011		